

1. 評価結果概要表

作成日平成21年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4671200253号		
法人名	有限会社 協愛介護サービス		
事業所名	グループホーム 協 愛		
所在地	鹿児島県 霧島市 国分新町 1丁目 6番52-17号 (電 話) 0995-48-8600		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月24日	評価確定日	平成21年8月15日

【情報提供票より】 (21年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 7月 31日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤11人 非常勤4人	常勤換算12.45人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 (6月12日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	11名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	72歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	協愛病院、清水整形外科、国分外科胃腸科、森原歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の住宅地に開設されているホームは母体病院や居宅介護支援事業所に隣接されているため、体調変化時のすばやい対応ができ、家族等に安心感をもたらしている。寝たきりの入居者が、座居の姿勢ができ、「次は歩けるようになりたい!」との希望に沿って支援している。中学生の職場体験・高校生のボランティア・地域の花見や敬老会など積極的に参加している。利用者の生活はゆっくりと落ち着いた時間が流れて暮らしが支えられている。職員は明るく、笑顔と優しさを大切にしながら利用者に関わっている。医療・福祉・地域・家族の連携が充実されているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	②	前回評価での改善課題は無し。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価に取組み、日頃のケアに対する反省の機会としてとらえている。課題を話し合い改善に取組み、評価を行う事により職員の意識向上につながっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は定期的開催され、ホームの活動や取組み状況を報告している。協議を通して地域の花見に招待されて参加したり、利用者の支援について提言をもとに、サービスの向上に活かす等の取り組みをしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設けたり、来訪時や家族会時に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。遠方の家族等の意見を表せる機会作りの工夫を改善課題として取組んでいる。 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、敬老会や花見などの地域行事に参加したり、中学生の職場体験・高校生のボランティア・婦人会の踊り・ボランティアが散歩時に車椅子の入居者に同行してくれる等、交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と役割、慣れ親しんだ地域で暮らし続けるための理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼時に唱和し、日々のケアに活かしている。各ユニットのホールとスタッフルームに掲示して常に意識づけできるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており地域行事の敬老会や花見などに参加したり、中学生の職場体験・高校生のボランティア・婦人会の踊り・ボランティアが散歩時に車椅子の入居者に同行してくれる等、交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議時に自己評価に取り組み、日頃のケアに対する反省の機会としてとらえている。課題を話し合い改善に取り組み、評価を行う事が職員の意識向上につながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、ホームの活動や取り組み状況を報告している。地域の花見に招待されて参加したり、利用者の支援について意見をもらう等、サービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に利用者の状況報告やホームの運営状況等を相談している。また、介護相談員の受入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行している。また、心身の状況報告を変化時に報告している。金銭管理は定期的には報告していない。	○	金銭管理についても定期的に報告される事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、来訪時や家族会時に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。遠方の家族等の意見を表せる機会づくりの工夫を改善課題として取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員・入居者・家族等との馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。やむを得ない異動の場合には新人職員に指導係をつけてダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は交替で参加し、研修の報告を行い職員は共有している。内部研修として法人の合同委員会や院内研修会で課題を設けて毎月勉強会をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協議会の研修に参加したり、他事業所の職員研修にホームを開放し職員間の交流が行われている。協議会開催の職種別勉強会に参加する計画や他ホームとの交流や情報交換を実施する計画も立てられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
、					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には本人や家族と面談したり見学をしてもらい、職員・入居者と馴染みながら信頼関係を築き、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの特技である漬物・梅干し・郷土料理・昔話・歌などを関わりの中で教えてもらい、話すときの輝いた表情や笑顔・ねぎらいの言葉に職員は励まされながら日々を共に過ごしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言動・表情を察したり、発語のない方は口元の形や問いかけを繰り返して把握に努めている。職員間の共有には申し送り帳に記録したり、情報伝達をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートに記録し、本人や家族の意向・主治医の意見・職員の気づきや意見を反映した、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、個別記録にケアの実践・結果・気づきを記録して情報を共有し、入居者の状態変化時・退院時にその都度モニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の状況や要望に応じて、病院受診や墓参り・入院時の洗濯物届けなど、必要な支援を柔軟にしている。医療連携の支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望しているかかりつけ医の受診を支援している。また、往診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっており、重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合っている。また看取り例があり、経験を通して職員間で充実した看取りケアの研修をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対する関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・レクリエーション・入浴等、その人の生活リズムと身体状況を大切にしながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体的に重度化の利用者が多いが、おぼん拭きやかたづけ等、できる事を一緒にしながら共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて対応している。入浴拒否の方は声かけや対応を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テレビ観戦・鉢植え・洗濯物たたみ・ぬり絵・歌等、入居者の趣味や特技を發揮できるように支援している。気晴らしに外食やベランダでのお茶や食事などの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買物・ベランダでの日光浴などを行っている。車椅子対応の方も出かけるように対応し、閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを支援している。プライバシーに配慮しながら、職員の連携と見守りで入居者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を消防署の協力のもとに行っている。災害時の備蓄は母体法人機関と共同で行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックして一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて、食事形態を変えている。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、清潔で明るく温度や換気が行き届いている。玄関やホールに季節の花や行事の装飾品が飾ってある。随所にソファがあり、畳部屋もある。くつろげるスペースが確保されてそれぞれ居心地良く過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみ・家族や本人の写真・椅子・鉢植え・時計等、馴染みの品が持ちこまれ、入居者は安心してゆったりと過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。